

2004年12月期決算 説明会資料

2005年2月3日(木)

株式会社 テンアートニ

(東証マザーズ:3744)

2004年12月期の業績のまとめ



- 2004年12月期は、売上高、利益ともに対前期比45%を上回る結果に。
- Java関連事業が競争激化で伸び悩むなか、市場拡大により好調であったLinux関連事業が業績を牽引。
- 上場による資金調達(520百万円)および純利益増加で自己資本比率は81.6%に。手元資金残高は757百万円。

2004年12月期業績の概況

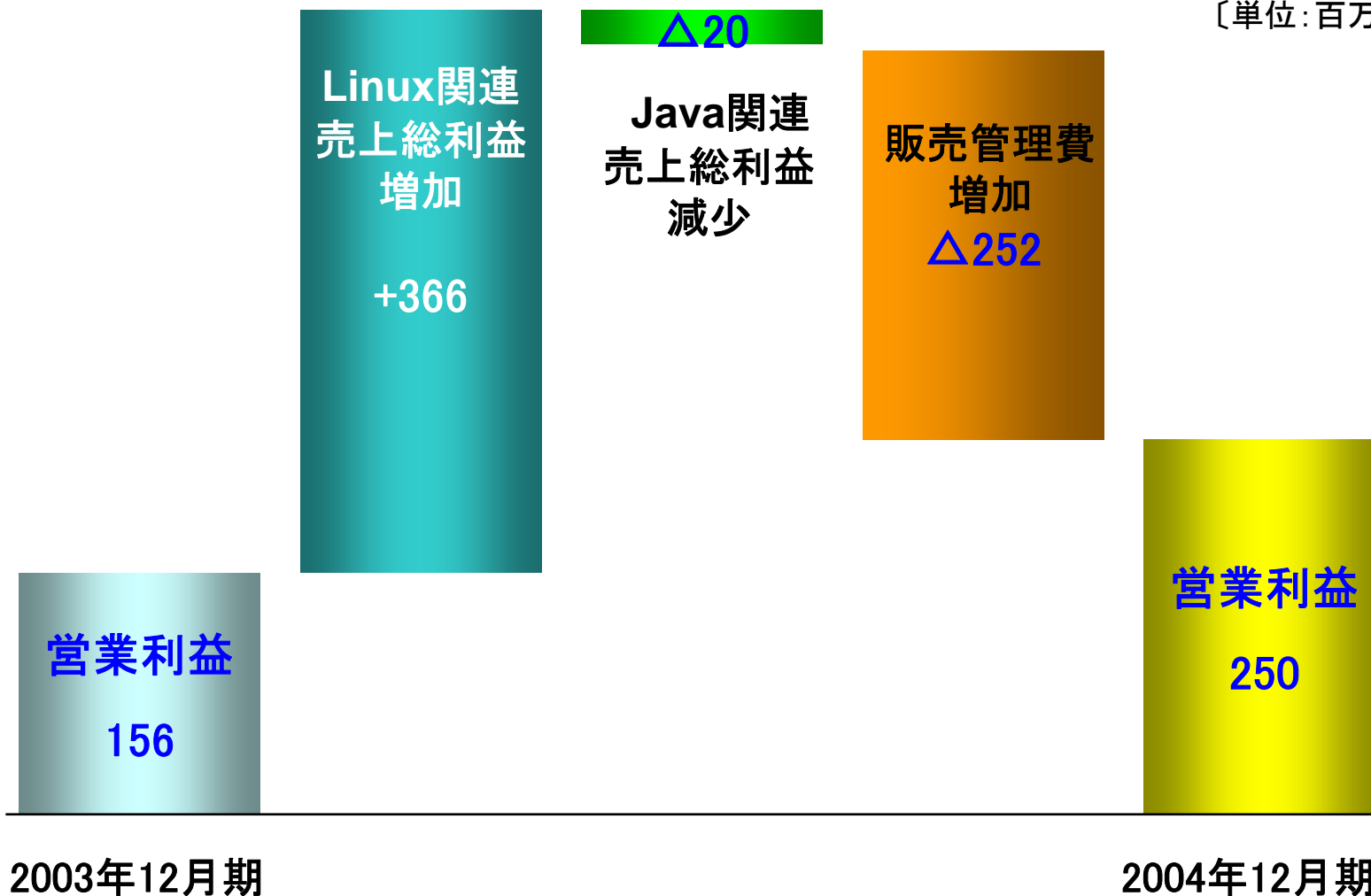


[単位:百万円]	2003年12月期 実績	2004年12月期 当初予想 (8月5日公表)	2004年12月期 実績	前期比 伸長率 (%)	当初予想比 伸長率 (%)
売上高	2,594	3,397	3,848	+48.3%	+13.3%
<Linux関連事業>	<1,593>	<2,459>	<2,824>	+77.3%	+14.8%
<Java関連事業>	<1,000>	<937>	<1,023>	+2.3%	+9.1%
営業利益	156	228	250	+60.0%	+9.6%
経常利益	156	215	243	+55.2%	+12.8%
当期純利益	227	291	330	+45.5%	+13.5%

営業利益の増減要因



[単位:百万円]

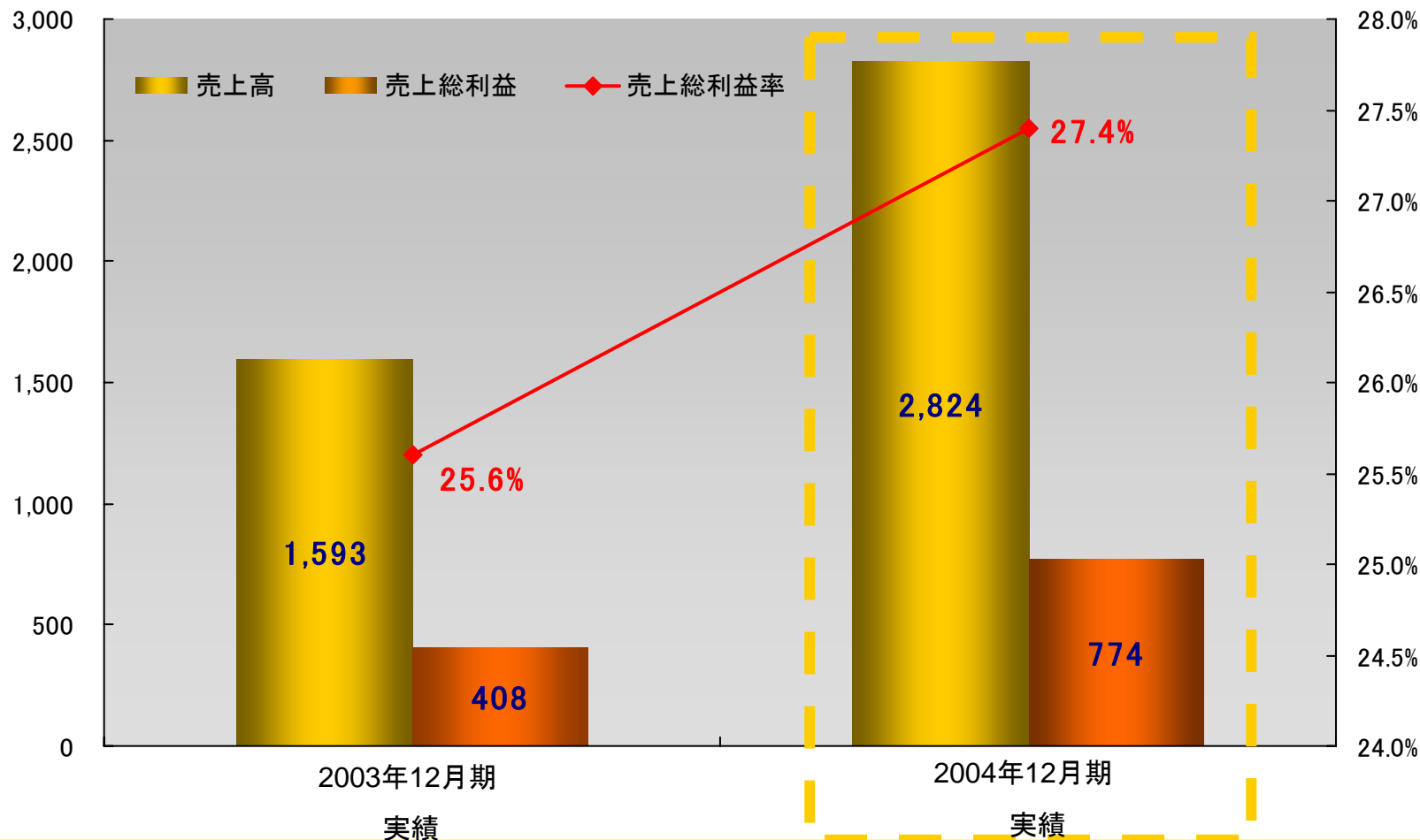


事業別売上高・売上総利益



Linux関連事業

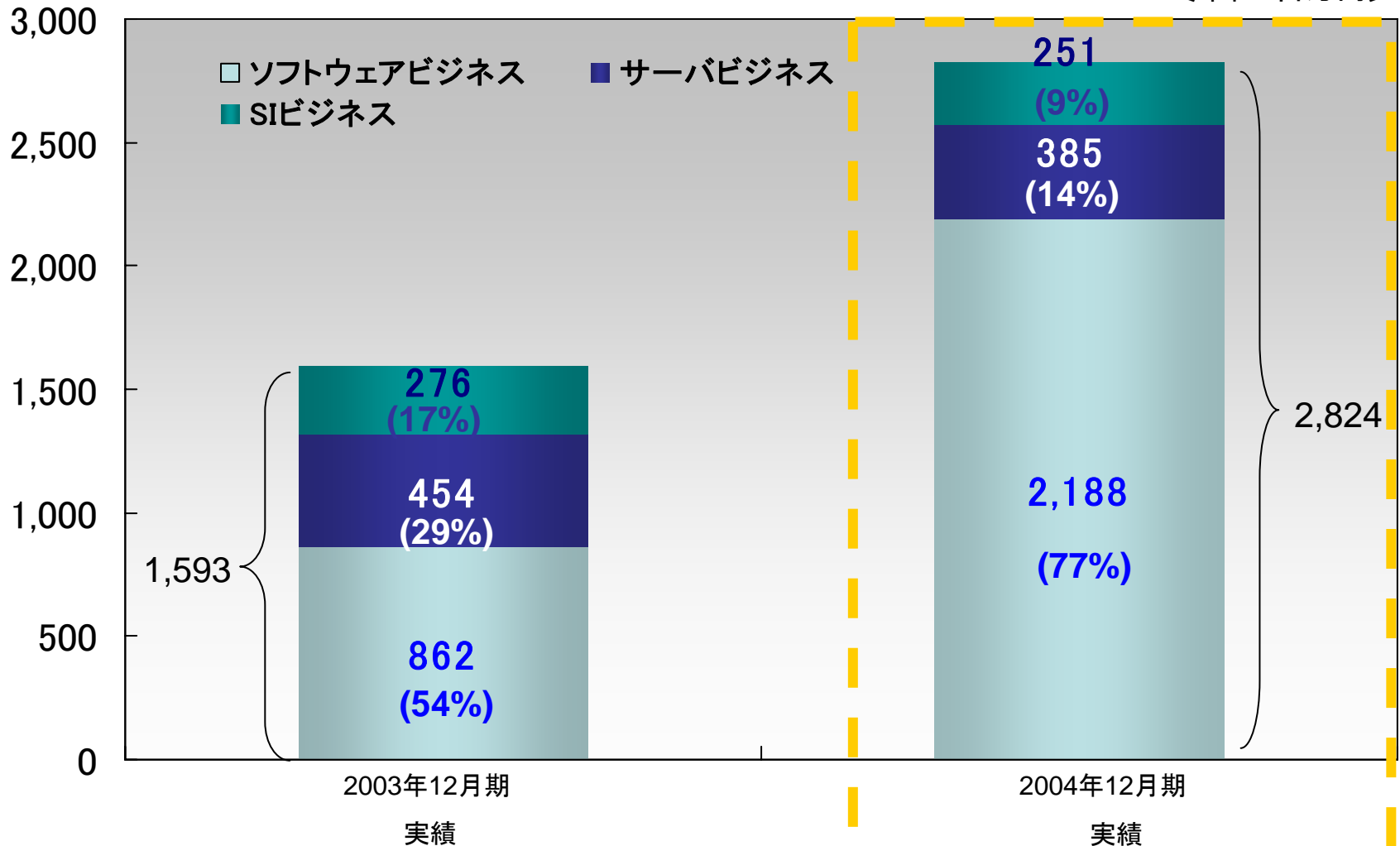
〔単位：百万円〕



Linux関連事業売上高の内訳



[単位:百万円]



Linux関連事業について



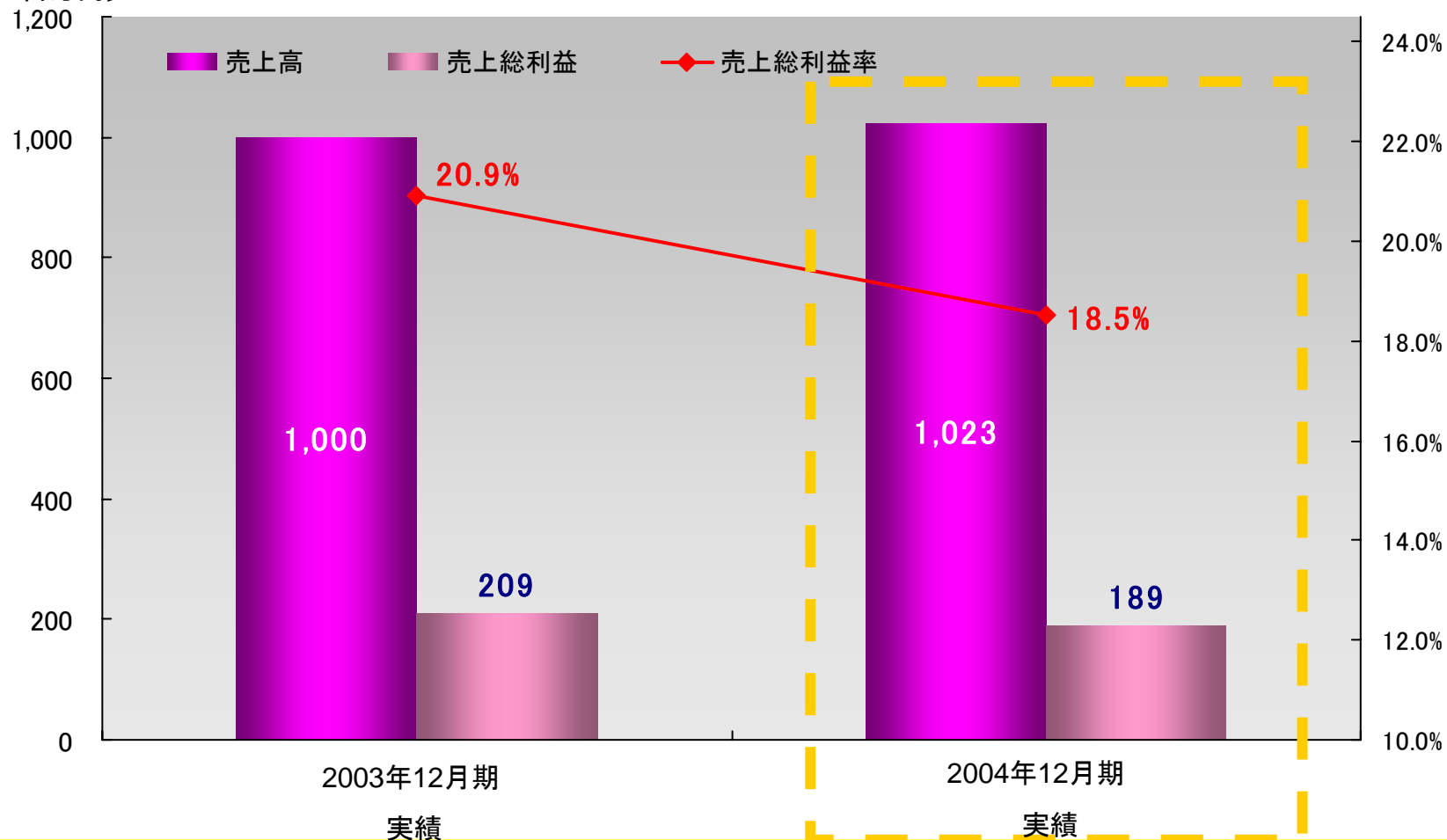
- **ソフトウェアビジネス** — Linux及び関連ソフトウェアの販売
Linuxの市場拡大により、Red Hat商品及びLinux関連パッケージ商品の販売が好調に推移し、売上高は前期比153.7%の増収となった
- **サーバビジネス** — 自社・他社ブランドのサーバ販売
ハードウェア市場の価格競争が激しく、売上高は前期比15.3%の減収となった
- **SIビジネス** — Linux等のシステム構築、コンサルティング、サポート
企業のLinux導入増大をうけ、サポートサービスの業績拡大したものの、コンサルティング等の減少をうけ、売上高は前期比9%の減収となった

事業別売上高・売上総利益



Java関連事業

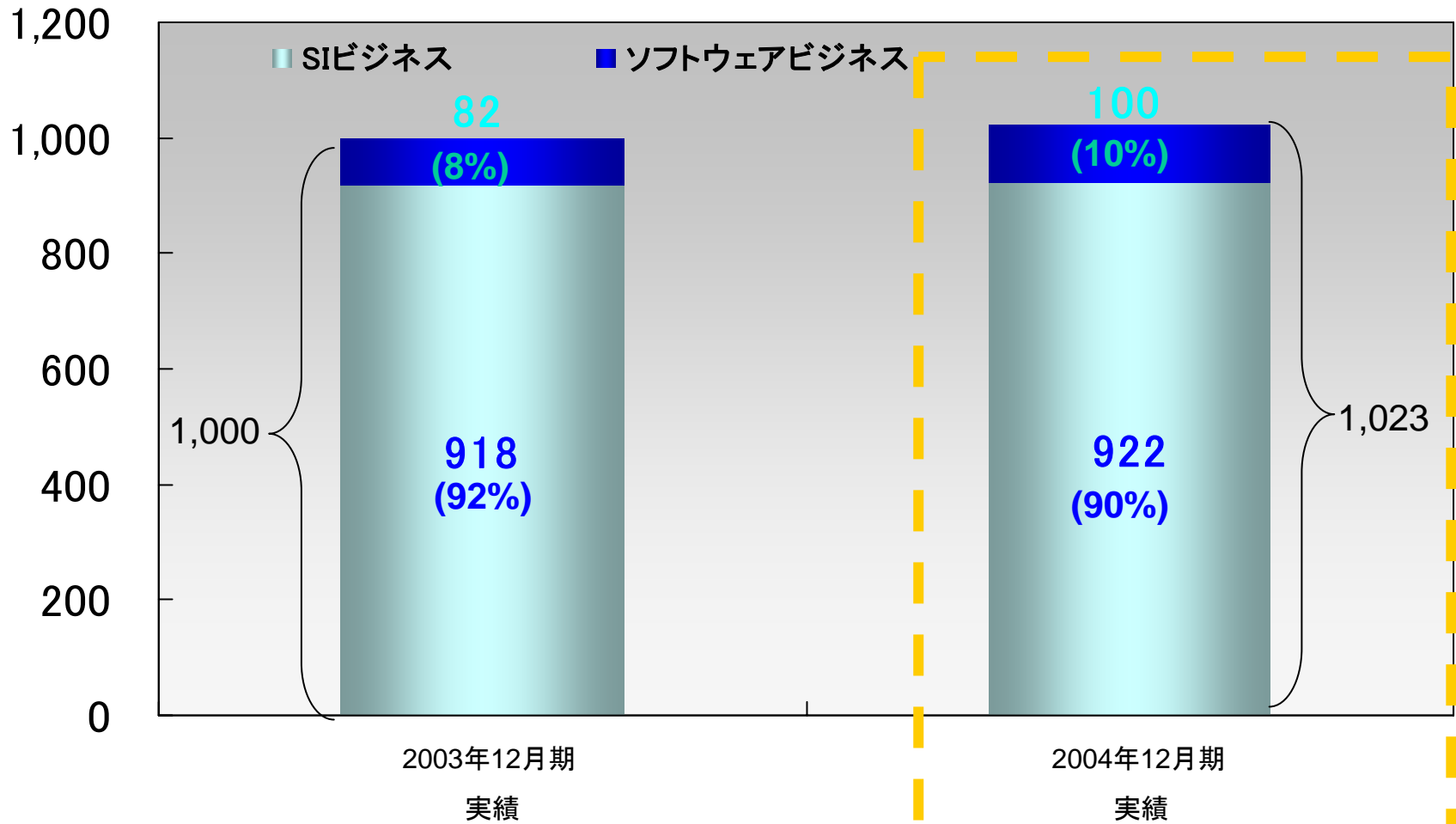
[単位:百万円]



Java関連事業売上高の内訳



[単位:百万円]



Java関連事業について



■ SIビジネス — Javaの受託開発、コンサルティング、教育

受託開発において売上よりも収益構造改善（不採算案件の削減）を優先したことにより、売上高は前期比0.5%と横ばい

■ ソフトウェアビジネス — 当社製品のWebシステム開発ソフトウェア販売

当社が開発したJavaのWebシステム開発の基盤ソフトウェア（フレームワーク）の販売拡大により、売上高は前期比22.4%の増収

2004年12月期末貸借対照表



〔単位:百万円〕	2003年12月 期末	2004年12月 期末	増 減
流動資産合計	1,076	1,731	+655
固定資産合計	149	212	+63
資産合計	1,225	1,943	+718
負債合計	491	358	△133
資本合計	734	1,585	+851
負債及び資本合計	1,225	1,943	+718

2004年12月期キャッシュ・フローの状況



	2003年12月期	2004年12月期
〔単位:百万円〕		
営業活動によるキャッシュ・フロー	249	38
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20	△56
財務活動によるキャッシュ・フロー	△150	520
現金及び現金同等物の増加額	78	503
現金及び現金同等物の期首残高	175	254
現金及び現金同等物の期末残高	254	757

従業員の推移

【全社員(含む契約・派遣社員、除く取締役・監査役)】

〔単位:人〕		2003年12月末	2004年12月末	前期比 増減
技術		68	70	2
	Linux	26	30	4
	Java	42	40	-2
営業		14	17	3
	Linux	7	10	3
	Java	7	7	0
マーケティング・事業開発*		7	11	4
事務		13	19	6
計		102	117	15

* 2004.1.1付事業開発室設立

会社概要について

テンアートニとは



LinuxとJava、

この2つの技術の中核として、

ソフトウェア・ハードウェア製品の開発、
販売とサポート、システム構築を行っている会社です。

何故LinuxとJavaか？



オープンソースがソフトウェア産業のビジネスモデルを変える!



LinuxとJavaはオープンソースのキーテクノロジー

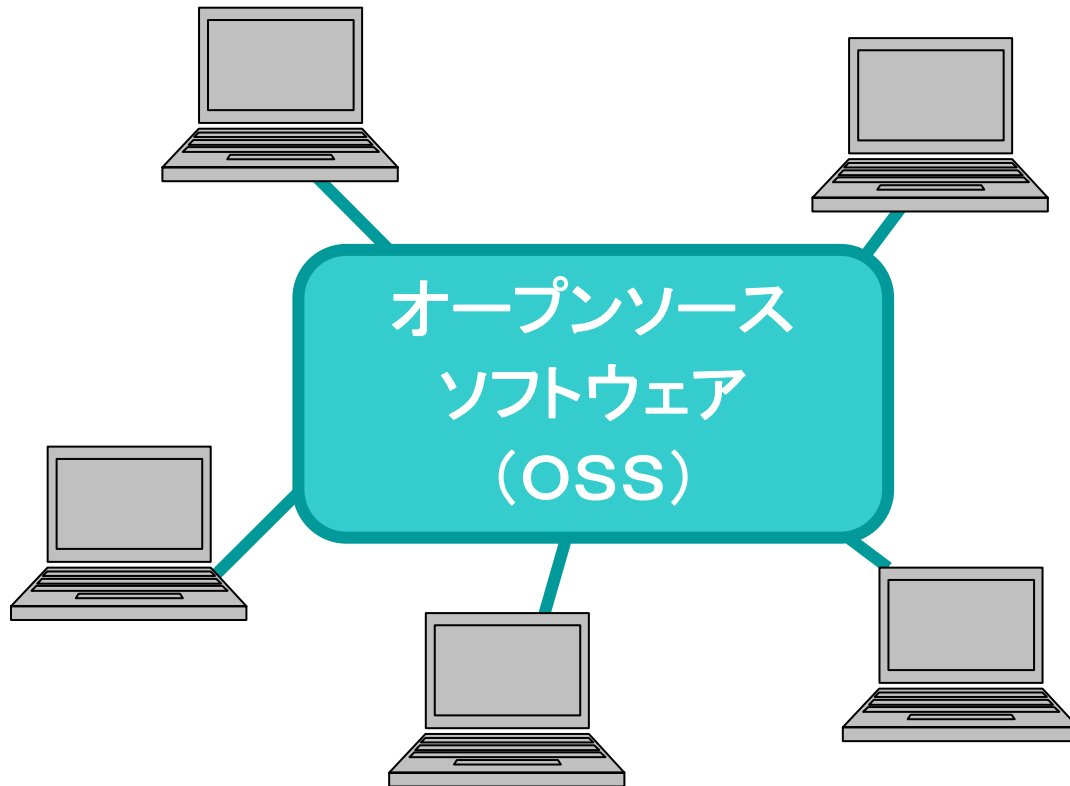


オープンソース時代のリーディングカンパニーに最も近い会社



テンアートニ

オープンソースソフトウェアとは



- 設計情報が公開されており、
無償で利用できる
- 世界中の技術者がボランティア
で開発を重ねる
- セキュリティ問題対応を素早く行
うことが可能
- ただし運用は自己責任であり、
サポートは期待出来ない

※主なOSS

Linux(リナックス)
FreeBSD、Apache
MySQL、Tomcat、
Mozilla

■略年表

1970年代まで:メインフレーム全盛時代(ハードウェアに価値)

…IBMが独占的な立場に

1980年代以降:**ソフトウェアの重要性**が増す

…Microsoft、Oracleなどが成長、発展

1990年代以降～2000年代:世界的なインターネットの普及

…**LinuxなどのOSS**が普及し、“**インターネットの申し子**”と言われる

企業・政府がOSS導入に積極的



なぜなら、

- コストを抑えられる

⇔プロプライエタリソフトウェア(商用ソフト)はライセンス料がかかる

【背景】

メーカーの製造設備や金融における情報システムなど、各産業でIT投資が企業競争力の生命線となっている

- セキュリティ上の優位性が認められる

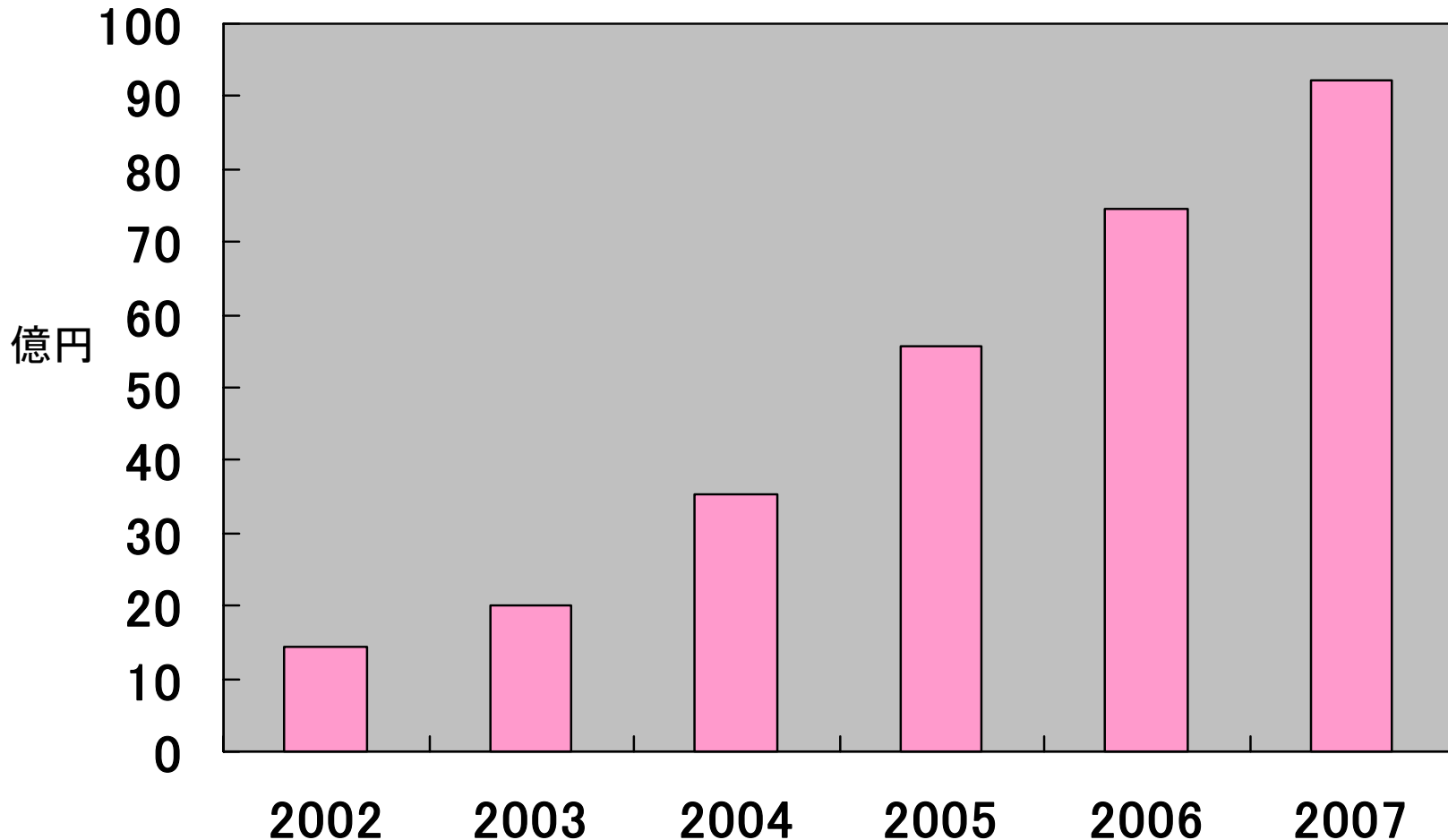
- 信頼性やパフォーマンスの高さが認知されてきた

- 特定企業への偏った依存を避けられる

オープンソースソフトウェアの成長性



国内LinuxサーバOS市場規模予測(ベンダー売上額ベース)



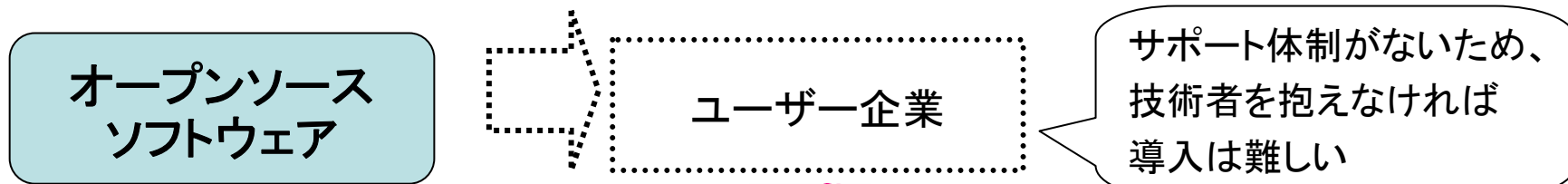
(出典: IDC Japan, 国内オペレーティングシステム市場: Linux市場分析と予測2003年~2007年)

テンアートニのビジネスモデル



“無償のソフトでどのように収益をあげているのか？”

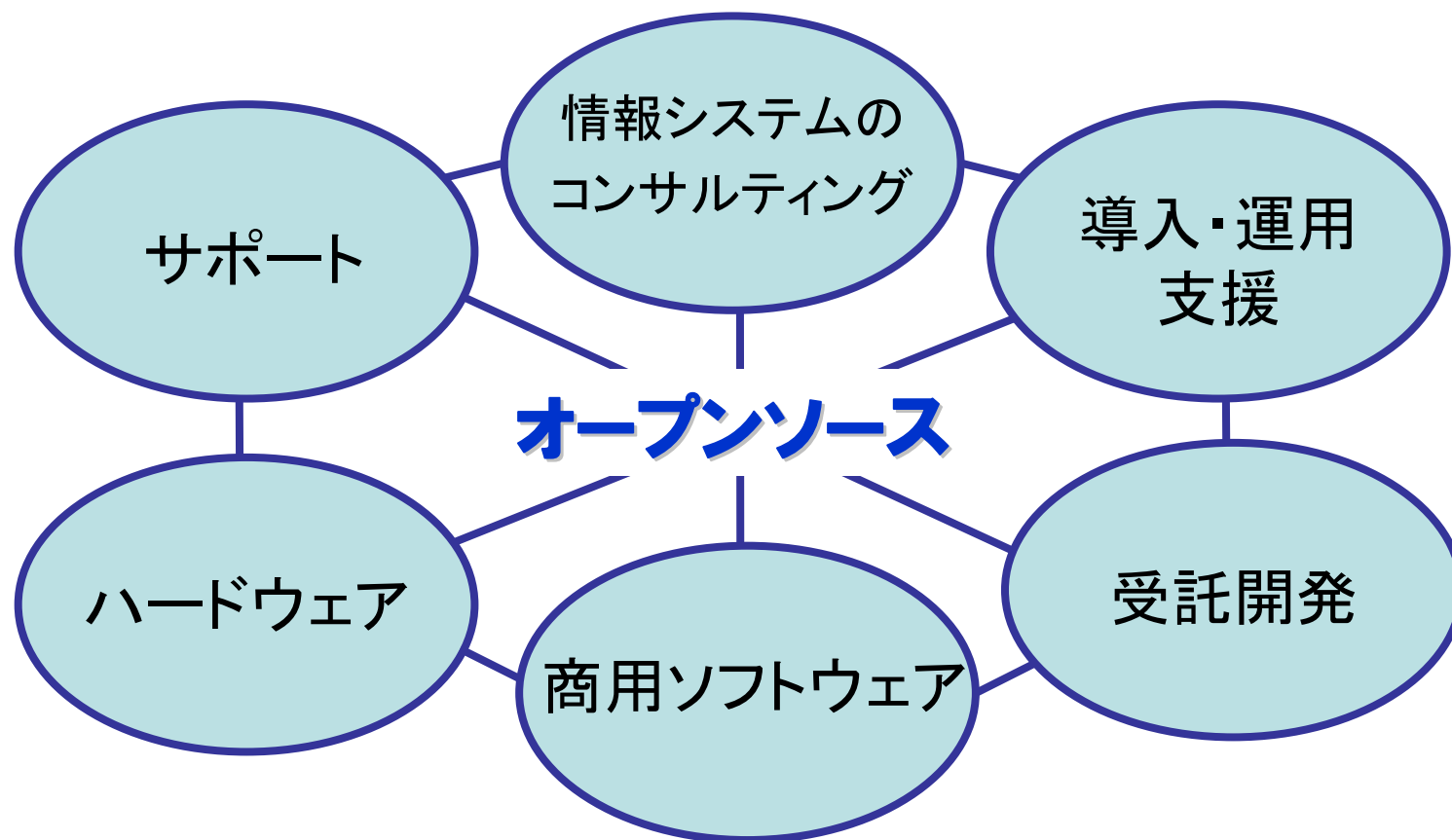
オープンソース導入の課題



テンアートニが導入を支援



テンアートニの事業領域(ドメイン)



オープンソース分野に特化し、あらゆるソリューションを提供

導入実績



■=Linux

■=Java

■=Linux&Java

製造

大日本インキ化学工業
凸版印刷
横河電機
東洋通信機
ルネサステクノロジ
麒麟ビール
セイコーエプソン
山武

建設・不動産

住友建設
日本コムシス
住友不動産販売

保険・金融・証券

アリコジャパン
丸三証券
東京スター銀行

流通・小売

ネットワークド
ファーストリテイリング
ガリバーインターナショナル
ニユートーキョー

輸送

全日空システム企画

情報サービス・通信

スクウェア・エニックス
九電ビジネスソリューション
新日鉄ソリューションズ
インテック
アサヒビジネスソリューションズ
KDDI

放送

テレビ朝日

学校法人・財団法人

大東文化大学
関東電気保安協会

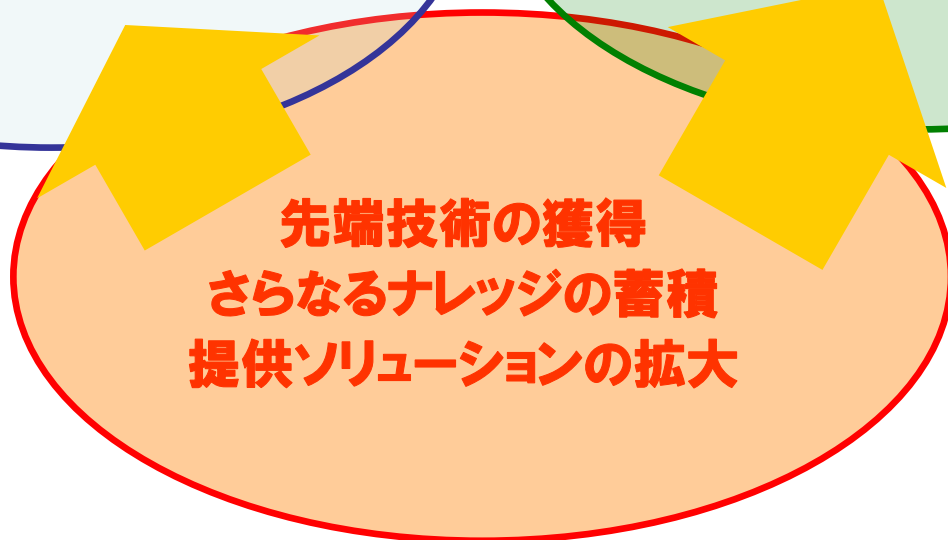
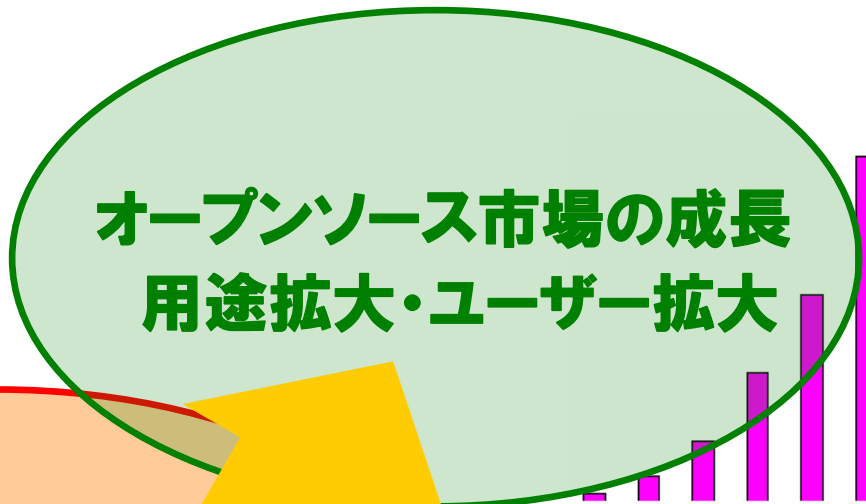
※当社作成の事例集に掲載した先の一部

テンアートニの強み



- オープンソースソフトウェア分野に**特化**
- 他社に先んじてオープンソースソフトウェアに関する**高い技術力とノウハウを蓄積**
- 無償ソフトを基盤に**独自の収益モデルを確立**
- Linux最大手の**米レッドハット社とパートナー**

テンアートニの成長戦略



オープンソース時代のリーディングカンパニー

2005年12月期業績見通し

2005年度の基本戦略



- オープンソースソフトウェアサポート
ビジネスの強化
- 新製品・新ビジネスモデルの開発
- 海外拠点の立ち上げ

2005年12月期業績見通し



〔単位:百万円〕	2004年12月期 実績	2005年12月期 予想 (2月2日公表)	前期比 伸長率
売上高	3,848	4,620	+20.1%
<Linux関連事業>	<2,824>	<3,592>	+27.2%
<Java関連事業>	<1,023>	<1,028>	+0.5%
営業利益	250	315	+26.0%
経常利益	243	313	+28.8%
当期純利益	330	336	+1.8%

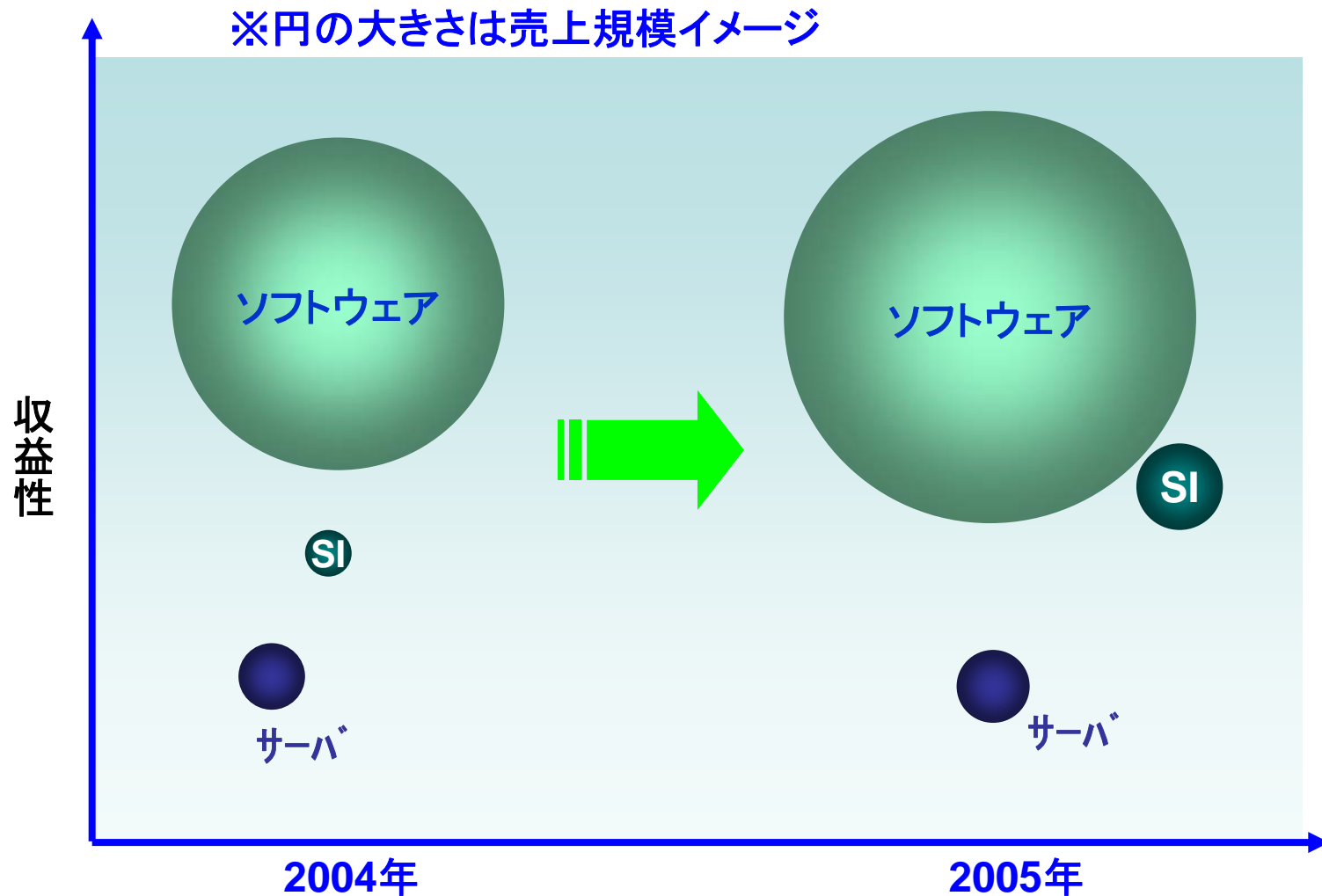
2005年度の見通しについて



Linux事業

- ✓ ソフトウェアビジネスにおいては、Linuxの市場拡大により、引き続きLinux及び関連ソフトウェアの販売増加を見込む
- ✓ SIビジネスは、Linux関連のサポートサービスの伸長を見込む
- ✓ サーバビジネスは、ハードウェアの価格競争により厳しい見通し

Linux関連事業の見通し



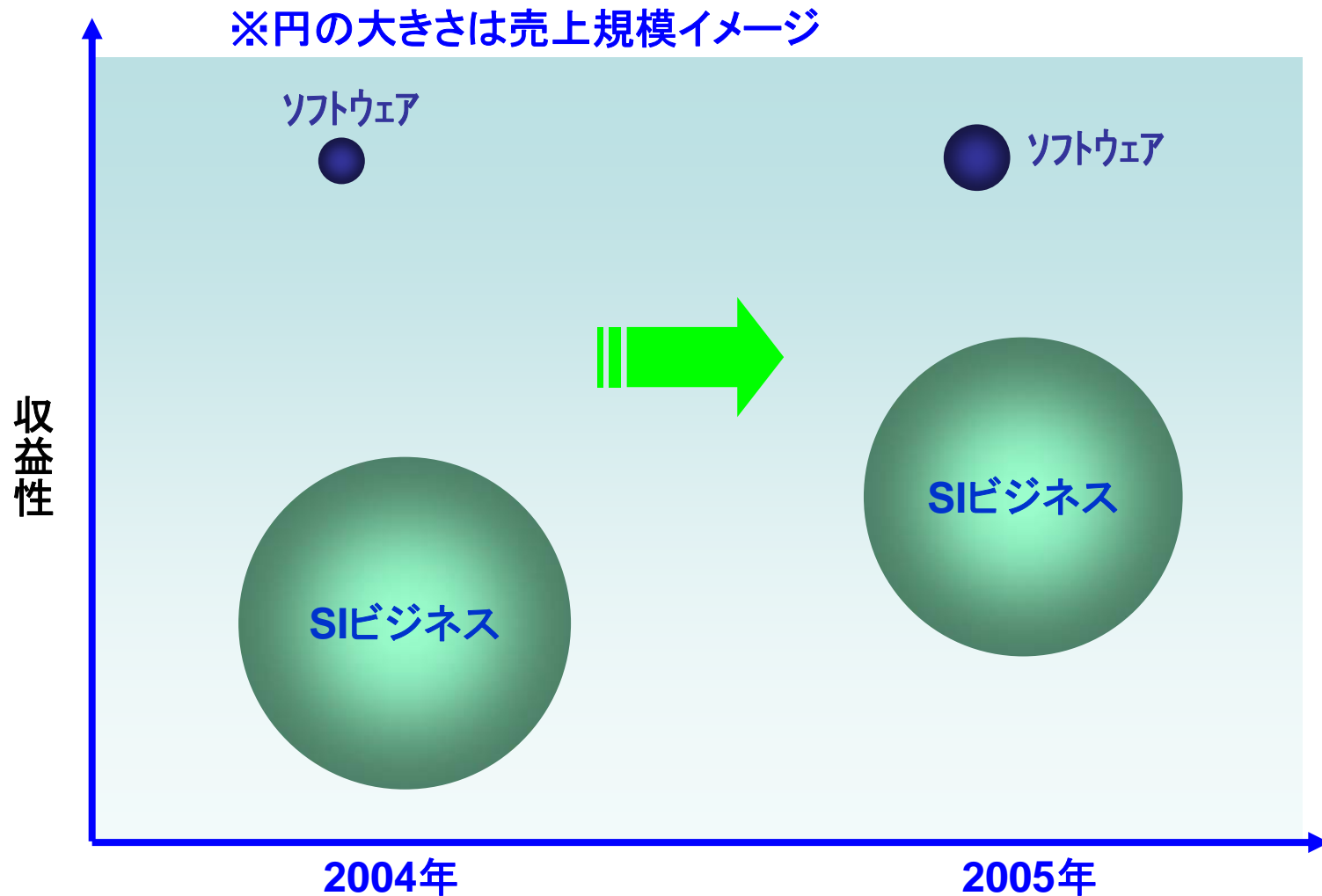
2005年度の見通しについて



Java事業

- ✓ 受託開発においては、引き続き競争激化が予想されるが、コスト管理体制の強化で利益改善を見込む
- ✓ ソフトウェアビジネスにおいては、自社製品の売上拡大を目指す

Java関連事業の見通し



ご注意



業績予想につきましては、現在入手している情報に基づいた当社の判断であり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要素により業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向などが含まれております。但し、業績に影響を与え得る要素は、これらに限定されるものではありません。